



2025年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年8月9日

上場会社名 株式会社木曽路

上場取引所 東名

コード番号 8160 URL <https://www.kisoji.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 吉江 源之

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 奥野 慎太郎

TEL 052-872-1811

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第1四半期の連結業績(2024年4月1日～2024年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	11,774	1.1	288		262		484	
2024年3月期第1四半期	11,647	15.6	232		217		360	

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 407百万円 (%) 2024年3月期第1四半期 278百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	17.19	
2024年3月期第1四半期	12.79	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	43,393	26,968	62.1
2024年3月期	45,974	27,657	60.2

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 26,968百万円 2024年3月期 27,657百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2024年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期		8.00		10.00	18.00
2025年3月期(予想)		12.00		12.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	24,700	3.5	210		195		325		11.54
通期	55,000	3.8	2,500	11.3	2,530	11.0	1,600	266.6	56.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期1Q	28,543,889 株	2024年3月期	28,543,889 株
期末自己株式数	2025年3月期1Q	383,311 株	2024年3月期	383,275 株
期中平均株式数(四半期累計)	2025年3月期1Q	28,160,598 株	2024年3月期1Q	28,161,691 株

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、[添付資料]3ページ「1. 経営成績等の概況(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(会計方針の変更に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(四半期連結損益計算書に関する注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間（2024年4月1日～2024年6月30日）におけるわが国経済は、物価上昇の影響を受けつつも、賃金上昇率の高まりや消費マインドの改善などを背景に、所得から支出への前向きな循環メカニズムが徐々に強まり、緩やかな回復基調で推移しました。

外食産業におきましては、ウクライナや中東情勢などの地政学リスクの影響、日米の金利差を背景とする円安進行により、エネルギー価格や原材料価格の高騰が懸念される等、コストを押し上げる要因が重なり、取り巻く環境は厳しい状況が続いております。

このような環境の中で、当社は主力業態であるしゃぶしゃぶ・日本料理の「木曽路」部門において、定期的なTVCMによる企業認知と季節ごとのフェアの告知などを実施しました。また、第2の柱として焼肉部門の強化を図るため、自社食肉加工工場を活かした品質の向上、木曽路部門の顧客管理手法を活用することにより営業力を強化しました。

費用面においては、客数予想をもとにしたシフト管理の徹底等により人件費をコントロールすると共に、新規仕入先との取引を積極的に推進し原価低減を図る等、経費削減に努めました。

一方、人材育成については、社内SNSツールを通じて、画像や動画配信することで分かりやすく、QSC（クオリティ・サービス・クリンリネス）や基本オペレーションの徹底を図りました。さらに組織間の目標・課題の共有、称賛を行うことにより、従業員のコミュニケーションの活性化が図られ、さらに好事例等を共有すること等により従業員のスキルアップやモチベーションアップに繋がりました。

なお、能登半島地震の復興支援に役立てていただくため、「春のうまいもの紀行 食べて石川県の復興を応援！」と題し、販売したイベント対象商品「ホテルイカの酢味噌掛け」「さくら香る加賀棒茶」の売上金の一部を5月22日に石川県庁へ寄付いたしました。今後もこのような社会貢献活動に取り組んでまいります。

店舗展開、改築・改装につきましては、1店舗の出店、1店舗の改装（うち業態転換1店舗）及び4店舗の退店を実施し、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は190店舗となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、117億74百万円（前年同期比1.1%増加）、営業損益は2億88百万円の損失（前年同期実績2億32百万円の損失）、経常損益は2億62百万円の損失（同2億17百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損益は4億84百万円の損失（同3億60百万円の損失）となりました。

なお、働き方改革の一環として株式会社木曽路において、5月7日、8日の2日間、全店一斉休業を実施しました。今後も働きやすい魅力ある企業作りにも努めてまいります。

(2) 当四半期の財政状態の概況

資産、負債及び純資産の状況

	前連結会計年度 (2024年3月31日現在)	当第1四半期会計期間 (2024年6月30日現在)	増減
総資産（百万円）	45,974	43,393	△2,581
純資産（百万円）	27,657	26,968	△689
自己資本比率（%）	60.2	62.1	—
1株当たり純資産（円）	982.15	957.68	△24.47

当第1四半期連結会計期間末の総資産は433億93百万円（前連結会計年度末比25億81百万円の減少）となりました。この主な内訳は、流動資産が171億57百万円、有形固定資産が163億48百万円、無形固定資産が20億31百万円、投資その他の資産が78億56百万円であります。前連結会計年度末からの主な減少要因は、流動資産が27億63百万円の減少となったことによるものであります。

一方、負債合計は164億24百万円（同18億92百万円の減少）となりました。この主な内訳は、流動負債が131億51百万円、固定負債が32億73百万円であります。前連結会計年度末からの主な減少要因は、未払法人税等が6億52百万円の減少となったことによるものです。また、当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は269億68百万円（同6億89百万円の減少）となりました。この主な内訳は資本金が126億48百万円、資本剰余金が124億67百万円、利益剰余金が22億16百万円であります。前連結会計年度末からの主な減少要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失4億84百万円の計上、前期末配当金2億81百万円の支払いによるものであります。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は62.1%（前連結会計年度末は60.2%）、1株当たり純資産額は957.68円（同982.15円）となりました。

(部門別売上高)

部門	事業内容	前第1四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	前年同期比 増減率
木曾路 部門	しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曾路」	9,103百万円	9,127百万円	0.3%
焼肉部門	特選和牛の「大將軍」 国産牛焼肉の「くいどん」	1,943	1,936	△0.4%
その他 部門	居酒屋	251	285	13.6%
	和食 しゃぶしゃぶの「鈴のれん」	160	150	△5.7%
	その他	340	355	4.5%
調整額		△150	△81	—
合 計		11,647	11,774	1.1%

(注) 部門別売上高は連結取引高の相殺消去前の数値であります。

木曾路部門

しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曾路」業態は、店舗の異動はなく、当第1四半期連結会計期間末店舗数は126店舗であります。営業面では好評を得ている季節イベントや「北海道まつり」、TVCMによる来店促進を実施しました。また、ライフロングパートナー・レストランを目指し、お食い初めや七五三などのお子様のお祝い、新入学・就職、結婚や長寿といった慶事・祝事へのアプローチとともに最適のおもてなし・料理を提供してまいりました。

その結果、売上高は91億27百万円（前年同期比 0.3%増加）となりました。

焼肉部門

特選和牛の「大將軍」及び国産牛焼肉の「くいどん」は、1店舗の改装（うち業態転換1店舗）及び4店舗の退店を行い、当第1四半期連結会計期間末店舗数は46店舗となりました。営業面では、アプリ会員の獲得、また業態認知に向けた販促広告の実施、季節ごとのフェアやご家族向けのイベントを実施し来店客数の増加、また毎月の29（にく）の日にお値打ちな商品をご用意しご満足いただけるよう努めましたが、4店舗の退店等もあり、売上高は19億36百万円（同 0.4%減少）となりました。

その他部門

居酒屋（「とりかく」、「大穴」）業態は、1店舗の出店により当第1四半期連結会計期間末店舗数は8店舗となりました。新規出店や宴会需要が回復し来店客数が増加したこと等により、売上高は2億85百万円（同 13.6%増加）となりました。

和食 しゃぶしゃぶの「鈴のれん」業態は、店舗の異動はなく、当第1四半期連結会計期間末店舗数は5店舗であります。来店客数が減少したこと等により、売上高は1億50百万円（同 5.7%減少）となりました。

その他業態は、食肉加工卸売、からあげ専門店の「からしげ」、EC物販（しぐれ煮、胡麻だれ類）及び不動産賃貸等であります。売上高は3億55百万円（同 4.5%増加）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年5月10日に公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,591	11,838
売掛金	1,970	1,626
商品及び製品	38	16
原材料及び貯蔵品	2,795	2,988
その他	525	689
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	19,920	17,157
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,904	7,961
土地	6,138	6,096
その他(純額)	2,053	2,290
有形固定資産合計	16,096	16,348
無形固定資産		
のれん	1,257	1,221
その他	747	809
無形固定資産合計	2,004	2,031
投資その他の資産		
差入保証金	4,117	4,107
その他	3,866	3,779
貸倒引当金	△30	△30
投資その他の資産合計	7,953	7,856
固定資産合計	26,054	26,236
資産合計	45,974	43,393

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,491	1,353
短期借入金	4,000	6,800
1年内返済予定の長期借入金	3,293	292
リース債務	159	142
未払費用	2,415	2,357
未払法人税等	760	108
資産除去債務	32	31
賞与引当金	673	316
その他	2,129	1,749
流動負債合計	14,954	13,151
固定負債		
長期借入金	478	405
リース債務	333	306
退職給付に係る負債	1,001	1,009
資産除去債務	1,315	1,322
その他	232	228
固定負債合計	3,362	3,273
負債合計	18,316	16,424
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,648	12,648
資本剰余金	12,467	12,467
利益剰余金	2,982	2,216
自己株式	△934	△935
株主資本合計	27,163	26,397
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	495	571
退職給付に係る調整累計額	△1	△0
その他の包括利益累計額合計	494	571
純資産合計	27,657	26,968
負債純資産合計	45,974	43,393

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	11,647	11,774
売上原価	3,716	3,762
売上総利益	7,931	8,011
販売費及び一般管理費	8,164	8,299
営業損失(△)	△232	△288
営業外収益		
受取利息	5	5
受取配当金	17	22
その他	10	6
営業外収益合計	33	33
営業外費用		
支払利息	11	6
賃貸借契約解約損	3	—
その他	3	1
営業外費用合計	18	8
経常損失(△)	△217	△262
特別利益		
固定資産売却益	0	—
特別利益合計	0	—
特別損失		
固定資産除売却損	73	33
特別損失合計	73	33
税金等調整前四半期純損失(△)	△290	△296
法人税、住民税及び事業税	44	33
法人税等調整額	24	153
法人税等合計	69	187
四半期純損失(△)	△360	△484
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△360	△484

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純損失(△)	△360	△484
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	83	76
退職給付に係る調整額	△1	0
その他の包括利益合計	81	76
四半期包括利益	△278	△407
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△278	△407
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

当社グループは、料理・飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食店のほか付随的に外販・不動産賃貸等を営んでおりますが、飲食店としての事業がほとんどを占めており実質的に単一セグメントのため、記載を省略しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

当社グループは、料理・飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食店のほか付随的に外販・不動産賃貸等を営んでおりますが、飲食店としての事業がほとんどを占めており実質的に単一セグメントのため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書に関する注記)

当社グループの売上高は、通常の営業形態として、主力商品である「しゃぶしゃぶ」の需要が年末年始を含めた冬季に高まるため、通常、第3及び第4四半期連結会計期間の売上高は第1及び第2四半期連結会計期間の売上高と比べ高くなる傾向があり、営業利益も第3及び第4四半期連結会計期間に片寄る傾向があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	373百万円	361百万円
のれんの償却額	45	35